

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年十二月度 入選句（投稿総数三千二百七句・一般投句数六百三十五句）

特選

身籠りしこと告げに来る小春かな

愛知県西尾市

金子 恵美

そう、おめでとう、よかつたね、これからは体調に気をつけて、元気な子を生んで下さいね。解らないこと遠慮せずに言うのよ、それで予定は何時なの、そう、よかつたね、暑くならない前でね。とにかく経験者として出来るだけのアドバイスしますからね。とても穏やかな小春日の日でありました。

もぎ取ればずしりと重き熟柿かな

大垣市

大杉 すみゑ

そつと、電球を外すように挽ぎとつたときの感触、それはずしりと重いでした。なるほどそうかも知れませんか。固いときと違って、強く触れば毀れてしまう危うさもあつて丁寧に扱う心地は、大げさに言えば赤ちやんを抱かせてもらつたときのような有り方であつたのです。

里山の虹追いかけて時雨けり

安八郡安八町

棚橋 良子

虹が時雨を、時雨が虹を、どちらが追いかけて、どちらが追いかけられるか。虹だけで、時雨だけでは成り立たない大自然の動画を見るような美しい世界。きつと自然の中の虹と時雨は恋人のような仲なのかも知れませんか。

秀逸

小春日の双子の眠る乳母車

揖斐郡池田町

木塚 しょう

風よりも光にゆれて散る紅葉

岐阜市

花川 和久

穏やかな日ざし枯野の果てまでも

大垣市

日比野 友子

天高し一人でできた逆上り

大垣市

安田 むつこ

すすき揺れ自分もゆれて歩き出す

大垣市

金森 廣子

秋晴れの高きより父母の家

大垣市

井上 敏子

年迎ふ真白き幣のさざれ石

大垣市

尾関 逸子

母寝かせ家計簿つけて霜の夜

大垣市

山田 千歌子

形よし色よし菊花香りよし

滋賀県甲賀市

甲賀 忍者

「十二月八日」遥かや日向ぼこ

安八郡神戸町

高橋 泰

入選

うろこ雲真赤にそめて夕暮れる
大垣市 大杉 すみゑ

我が影は二十頭身秋夕焼
大垣市 高津 喜久子

秋澄むやリュック群団次々と
大垣市 野村 みち代

冬時雨早く帰れと鳴るチャイム
大垣市 佐竹 余史美

余生なほ寄りそいつつや秋の旅
大垣市 大角 信華

今朝の畑うつすら白く冬めきぬ
大垣市 稲垣 君弥

秋晴れやゆつくり廻る観覧車
大垣市 桐山 敏子

猫の背のいよいよ丸し冬めきぬ
大垣市 仁村 光生

小春日や上衣一枚腕に掛け
大垣市 福永 峰子

余生とは人それぞれや石露の花
大垣市 平野 きぬよ

入選

冠雪の御嶽をがむ小六月
大垣市 久保田 悟義

年用意戌から亥へとご挨拶
京都府宇治市 古根 洋子

冬の菊残り香すこし母の墓
大垣市 岡田 あや子

どんな夢見るのか里の山眠る
大垣市 多和田 一徳

友招き夜咄の灯のゆるるかな
大垣市 山田 千歌子

報恩講男も交じる割烹着
大垣市 森川 きよ子

冬ざくらひとり旅のおちつかず
大垣市 秋山 くに子

冬温し抹茶しづかに喉通る
大垣市 高木 歌佐

忙しなく終へる師走の句会かな
兵庫県神戸市 岸下 庄二

長生きの母ゐてうれし一葉忌
長野県下伊那郡 長沼 まさし

選者吟

湯の柚子の寄り来る心鎮めれば